



平成30年9月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年5月14日

上場会社名 株式会社イグニス
コード番号 3689 URL <http://1923.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 錢 鋸
問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 山本 彰彦

TEL 03-6408-6820

四半期報告書提出予定日 平成30年5月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年9月期第2四半期の連結業績(平成29年10月1日～平成30年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年9月期第2四半期	2,470	12.7	666		674		855	
29年9月期第2四半期	2,828	8.3	195	76.8	184	78.0	91	89.7

(注) 包括利益 30年9月期第2四半期 873百万円 (%) 29年9月期第2四半期 61百万円 (93.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円 銭	円 銭
30年9月期第2四半期	63.97	
29年9月期第2四半期	7.10	6.76

1. 当社は、平成29年12月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

2. 平成30年9月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年9月期第2四半期	5,361	3,327	60.4
29年9月期	6,291	4,135	64.3

(参考) 自己資本 30年9月期第2四半期 3,235百万円 29年9月期 4,046百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年9月期		0.00		0.00	
30年9月期		0.00			
30年9月期(予想)				0.00	

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年9月期の連結業績予想(平成29年10月1日～平成30年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高	
	百万円	%
通期	4,400	21.1

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(平成30年5月14日)公表いたしました「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年9月期2Q	13,470,200 株	29年9月期	13,412,200 株
期末自己株式数	30年9月期2Q	43,234 株	29年9月期	43,128 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年9月期2Q	13,376,241 株	29年9月期2Q	12,940,066 株

(注)当社は、平成29年12月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式(普通株式)を算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4、「当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法)

当社は、平成30年5月14日(月)に機関投資家及びアナリスト向け説明会を開催する予定です。

この説明会の動画については、当日使用する決算説明資料とともに、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループ(当社、連結子会社及び持分法適用会社)は「世界にインパクトを与えなければ、気がすまない」という経営理念及び「次のあたりまえを創る。何度でも」というミッションのもと、インターネット、スマートフォン等を通じたさまざまなビジネス領域において、多くのユーザーに支持されるサービスの企画・制作・運営を行っております。

当社グループが展開するビジネスとして、「運命より、確実。」をキャッチコピーとしたオンライン恋愛・婚活サービス『with』等のコミュニティ、1日3回のド迫力リアルタイム協力バトルが楽しめるスマホRPG『ぼくとドラゴン』等のネイティブゲーム、空地の有効活用と街の賑わい創出を目指したフードトラック・プラットフォーム『TLUNCH』等のその他という3ジャンルを既存事業と位置付けて展開しております。さらに、新規ジャンルへのチャレンジとして、今後のサービスの普及拡大と急成長が見込まれる分野であるVR(Virtual Reality:仮想現実)やAI(Artificial Intelligence:人工知能)、IoT(Internet of Things:モノのインターネット)等の最先端技術に着目し、前連結会計年度より積極的に経営資源を投入してまいりました。VR分野では、平成30年2月にVRを活用した新しい音楽体験の発明として、Virtual Live Platform「INSPIX」の開発加速と新規IP創出、海外展開等を本格的に開始しました。その他、VRタレントのマネジメントを専門とする株式会社岩本町芸能社との業務提携契約や、順天堂大学との共同研究として『VRアプリケーションによる慢性痛み刺激の緩和の臨床研究』の開始など、その他複数のプロジェクトを推進しております。AI・IoTを活用した新規分野では機械学習を用いた自動外観検査装置の開発・検証について愛知県豊田市内の自動車部品メーカーと提携し推進しております。このように当社グループは多くの事業を展開しており、そのため当第2四半期連結累計期間では、前連結会計年度に引き続き事業強化・新規事業の収益化に向け、積極的な先行投資を行ってまいりました。新たな事業基盤構築を図りつつ更なる成長を目指してまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,470,291千円(前年同四半期比12.7%減)、営業損失は666,943千円(前年同四半期は営業利益195,628千円)、経常損失は674,041千円(前年同四半期は経常利益184,721千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は855,660千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益91,911千円)となりました。

なお、当社グループはセグメント情報を記載していないため、セグメントごとの業績は省略しております。

各ジャンルの取り組みと業績は以下のとおりであります。

(コミュニティ)

当第2四半期連結累計期間はオンライン恋愛・婚活サービス『with』を中心に、ユーザー数の増加を目指した先行投資として積極的なプロモーションを展開してきたこともあり、「2017年国内マッチングアプリダウンロードランキング」では5位、「2017年国内・非ゲームアプリ収益ランキング」では30位を記録しました(注1)。足元でも国内ソーシャルネットワークのカテゴリにおける売上ランキングは上位収斂しております。このような中、他社類似サービスとの差別化を図るべく、心理学を活用して最適な男女のマッチングを目指し、「自己紹介文の自動生成機能」や「クリスマス相性診断イベント」「メンタリストDaiGo監修の診断イベント機能」のアップデート等の機能追加やイベントを継続的に実施してまいりました。当該サービスについては、引き続きユーザービリティの向上及び積極的なプロモーションを展開することでユーザー数の増加を図ってまいります。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当ジャンルの売上高は726,657千円となりました。前年同四半期における当ジャンルの売上高は336,364千円であったことから、前年同四半期比116.0%増となっております。

(ネイティブゲーム)

当第2四半期連結累計期間は『ぼくとドラゴン』が配信開始から3周年を迎え、iOS版の売上ランキングで6位を記録する等、引き続き安定的に推移いたしました。具体的な取り組みとして「まおう様ラッキーボックス」等の機能追加や「3周年記念キャンペーン」「350万ダウンロードキャンペーン」、「THE KING OF FIGHTERS '98 コラボキャンペーン」といった、各種キャンペーンを実施いたしました。今後も機能追加・改善・キャンペーンを実施し、ユーザー満足度の向上と業績の安定化に努めてまいります。また、平成30年3月には新タイトルとして、『メガスマッシュ(コードネームGK)』の配信を開始いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当ジャンルの売上高は1,545,262千円となりました。前年同四半期における当ジャンルの売上高は2,299,517千円であったことから、前年同四半期比32.8%減となっております。

（その他）

その他（注2）はビジネスパーソン向け情報メディア『U-NOTE』及び転職メディア『U-NOTE. CAREER』やフードトラック・プラットフォーム『TLUNCH』並びにどのジャンルにも属さないプロダクト等により構成されております。

当第2四半期連結累計期間は、主に『TLUNCH』が首都圏を中心に運営スペースと登録フードトラック事業者数を拡大させており、運営スペースについては平成30年3月末時点で60スペース（前年同期比300.0%増）を超え急成長を遂げており、日本最大級の規模に成長しております。その他、中長期的な成長を見越し、新規分野として今後急成長が見込まれると思われるVRやAI・IoTといった最先端技術に着目したビジネスにも投資を積極的に行っております。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当ジャンルの売上高は198,370千円となりました。前年同四半期における当ジャンルの売上高は192,992千円であったことから、前年同四半期比2.8%増となっております。

（注） 1. 出典：App Annie

2. 事業が多様化してきていることを踏まえ、従来の「メディア（その他）」を「その他」に変更しております。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第2四半期連結会計期間末の総資産は5,361,619千円となり、前連結会計年度末に比べ929,951千円減少いたしました。流動資産は3,793,837千円（前連結会計年度末比943,034千円減）となりました。主な減少要因は、既存事業強化や新規事業への投資として現金及び預金が1,049,639千円減少したこと、主な増加要因は、その他に含まれる立替金が405,600千円、営業貸付金が29,608千円増加したことによるものであります。また、固定資産は1,567,782千円（前連結会計年度末比13,082千円増）となりました。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末の負債は2,033,913千円となり、前連結会計年度末に比べ122,275千円減少いたしました。流動負債は1,405,620千円（前連結会計年度末比9,802千円増）となりました。主な減少要因は、消費税等の支払いによりその他に含まれる未払消費税等が130,159千円減少したこと、主な増加要因は、未払金が76,347千円、運転資金の借入により一年内返済予定の長期借入金が33,336千円増加したことによるものであります。また、固定負債は長期借入金が132,078千円減少したことにより628,292千円（前連結会計年度末比132,078千円減）となりました。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末の純資産は3,327,706千円となり、前連結会計年度末に比べ807,676千円減少いたしました。主な減少要因は、利益剰余金が855,660千円減少したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は1,123,274千円となり、前連結会計年度末に比べ1,049,639千円減少いたしました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の減少は507,596千円（前年同四半期は1,108,693千円の減少）となりました。主な減少要因は、税金等調整前四半期純損失708,227千円、立替金の増加405,600千円、営業貸付金の増加104,608千円、未払消費税等の減少130,159千円によるもの、主な増加要因は、減価償却費241,040千円及び法人税等の還付額366,706千円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は499,756千円（前年同四半期は316,703千円の減少）となりました。主な減少要因は、無形固定資産の取得による支出201,576千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の減少は39,799千円（前年同四半期は2,046,509千円の増加）となりました。主な増加要因は、長期借入れによる収入100,000千円によるものであります。主な減少要因は、長期借入金の返済による支出198,742千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年9月期の連結業績予想につきましては、平成29年11月13日付けの「平成29年9月期 決算短信」で公表いたしました数値を修正しております。

詳細につきましては、本日(平成30年5月14日)公表いたしました「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,172,913	1,123,274
売掛金	614,062	589,571
営業貸付金	1,286,082	1,315,691
貯蔵品	5,194	5,194
未収還付法人税等	363,715	789
その他	294,902	759,316
流動資産合計	4,736,871	3,793,837
固定資産		
有形固定資産	187,586	227,721
無形固定資産		
のれん	80,373	32,917
ソフトウェア	395,322	413,488
無形固定資産合計	475,696	446,406
投資その他の資産	891,417	893,654
固定資産合計	1,554,700	1,567,782
資産合計	6,291,571	5,361,619
負債の部		
流動負債		
買掛金	79,155	76,996
短期借入金	400,000	400,000
1年内返済予定の長期借入金	380,816	414,152
未払金	235,220	311,568
未払法人税等	22,296	31,742
その他	278,328	171,161
流動負債合計	1,395,817	1,405,620
固定負債		
長期借入金	616,574	484,496
資産除去債務	143,796	143,796
固定負債合計	760,370	628,292
負債合計	2,156,188	2,033,913
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,505,334	1,531,925
資本剰余金	1,390,186	1,413,407
利益剰余金	1,198,290	342,630
自己株式	△51,933	△52,164
株主資本合計	4,041,878	3,235,798
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	4,152	157
その他の包括利益累計額合計	4,152	157
新株予約権	5,262	17,797
非支配株主持分	84,090	73,952
純資産合計	4,135,383	3,327,706
負債純資産合計	6,291,571	5,361,619

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年3月31日)
売上高	2,828,873	2,470,291
売上原価	482,477	653,556
売上総利益	2,346,396	1,816,735
販売費及び一般管理費	2,150,768	2,483,679
営業利益又は営業損失(△)	195,628	△666,943
営業外収益		
受取利息	1,740	1,017
持分法による投資利益	751	—
還付加算金	577	3,867
雑収入	202	3,433
営業外収益合計	3,271	8,318
営業外費用		
支払利息	1,999	3,401
持分法による投資損失	—	5,329
貸倒引当金繰入額	3,999	—
株式交付費	6,843	6,506
雑損失	1,335	179
営業外費用合計	14,178	15,416
経常利益又は経常損失(△)	184,721	△674,041
特別損失		
のれん償却額	—	34,185
特別損失合計	—	34,185
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	184,721	△708,227
法人税、住民税及び事業税	90,840	22,033
法人税等還付税額	—	△4,418
法人税等調整額	39,958	143,324
法人税等合計	130,798	160,939
四半期純利益又は四半期純損失(△)	53,922	△869,167
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△37,989	△13,507
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	91,911	△855,660

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	53,922	△869,167
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	7,530	△3,994
その他の包括利益合計	7,530	△3,994
四半期包括利益	61,453	△873,161
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	99,442	△859,654
非支配株主に係る四半期包括利益	△37,989	△13,507

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	184,721	△708,227
減価償却費	223,783	241,040
のれん償却額	13,270	47,456
貸倒引当金の増減額(△は減少)	3,999	78,103
株式交付費	6,843	6,506
受取利息	△1,740	△1,017
支払利息	1,999	3,401
持分法による投資損益(△は益)	△751	5,329
売上債権の増減額(△は増加)	△210,845	21,751
営業貸付金の増減額(△は増加)	△571,385	△104,608
立替金の増減額(△は増加)	△86,247	△405,600
たな卸資産の増減額(△は増加)	2,500	△442
差入保証金の増減額(△は増加)	△1,406	△42
仕入債務の増減額(△は減少)	△3,889	△2,859
未払金の増減額(△は減少)	△9,785	68,001
未払消費税等の増減額(△は減少)	55,031	△130,159
その他	59,419	19,912
小計	△334,481	△861,454
利息の受取額	520	313
利息の支払額	△1,999	△3,346
法人税等の支払額	△804,611	△9,816
法人税等の還付額	31,879	366,706
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,108,693	△507,596
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△44,084	△88,454
無形固定資産の取得による支出	△179,638	△201,576
投資有価証券の取得による支出	△13,000	△81,400
短期貸付金の純増減額(△は増加)	8,704	△31,044
長期貸付けによる支出	△500	-
長期貸付金の回収による収入	-	300
敷金の差入による支出	△55,521	△52,425
その他	△32,663	△45,155
投資活動によるキャッシュ・フロー	△316,703	△499,756
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	300,000	-
長期借入れによる収入	120,000	100,000
長期借入金の返済による支出	△92,346	△198,742
株式の発行による収入	1,758,395	46,433
自己株式の取得による支出	-	△231
新株予約権の発行による収入	-	12,740
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△43,200	-
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の売却による収入	338	-
その他	3,321	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,046,509	△39,799
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,023	△2,486
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	625,137	△1,049,639
現金及び現金同等物の期首残高	2,170,383	2,172,913
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,795,520	1,123,274

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

開示情報としての重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。